R7年10月2日(木)実施

20

母性方法論1　試験問題（20点）　担当　川越

1．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。（2点）
1) 妊娠中はインスリン抵抗性が低下する。
2) 糖尿病合併妊娠では先天奇形予防のため妊娠前から血糖コントロールを行う。
3) 妊娠糖尿病の診断には75gOGTT(糖負荷試験)が用いる。
4) 母体が高血糖である場合には胎児の肺成熟は遅れやすい。

2．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。（2点）
1) 最近妊婦の肥満が問題となっており出生児の将来の生活習慣病のリスクが増加する。
2) 特定妊婦は児童福祉法で定義されている。
3) 35歳以上で初めて妊娠することを高齢妊娠という。
4) 妊娠中の母体の循環血液量は妊娠32週ごろには約1.5倍に増加する。

3．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 甲状腺ホルモンは胎児の脳の正常な発達に重要である。
2) 甲状腺機能亢進症の妊婦では妊娠初期はチアマゾール(メルカゾール)内服を避ける。
3) 妊娠に全身性エリテマトーデス合併することで胎児頻脈を生じることがある。
4) 慢性腎炎合併妊娠の場合、クレアチニンクリアランス値が妊娠可否の目安となる。

4．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 妊娠中に虫垂炎を発症した場合、手術はできるだけ避け抗菌薬で治療を行う。
2) 先天性風疹症候群は妊娠初期での母体の感染で起こりやすい。
3) 妊娠中の風疹ワクチンの接種は禁忌である。
4) トキソプラズマ症は妊娠後期での感染で胎児への感染が増加する。

5．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 外陰部に性器ヘルペスの所見を認める場合には帝王切開で分娩する。
2) 分娩前3週間以内に母体が水痘に罹患した場合に新生児水痘を発症しやすい。
3) HBs抗原陽性の妊婦から生まれた新生児には出生後HBワクチンのみを投与する。
4) 成人T細胞白血病ウイルスは主に母乳中のリンパ球を介し児に感染する。

6．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 梅毒は一度治療し完治しても再感染する。
2) 梅毒感染は女性では30-39歳に多く認める。
3) 妊婦の3～5%にクラミジア感染を認める。
4) ヒト免疫不全ウイルス(HIV)の母子感染の経路としては経胎盤、経産道、経母乳のいずれも起こりうる。

7．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 全妊婦に対し妊娠30週前後にB群溶血性連鎖球菌（GBS）の培養検査を行う。
2) 重度の妊娠悪阻では母体のウェルニッケ脳症の予防のためビタミンB1を投与する。
3) 母体の血圧が高い場合、子癇発作予防を目的に硫酸マグネシウムが用いられる。
4) 硫酸マグネシウムの投与中は尿量減少で血中Mg濃度が上昇するので尿量に注意する。

8．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 妊娠42週0日以降まで妊娠が継続した場合、過期妊娠とよぶ。
2) 早産は妊娠22週0日以降、妊娠36日6日までに分娩に至った場合である。
3) 一絨毛膜双胎は胎盤循環を共有していることが多く双胎間輸血症候群を起こすことがある。
4) 一卵性双胎が二絨毛膜性双胎（胎盤が2つ存在）になることはない。

9．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) Rh陰性妊婦では分娩後1週間以内に抗D免疫グロブリンを投与する。
2) Rh式血液型の抗原の中で問題になるのはD抗原である。
3) Rh不適合妊娠で移行抗体が胎児に移行すると貧血になり免疫性胎児水腫を来す。
4) 胎児貧血の評価には胎児の中大脳動脈収縮期血流速度が用いられる

10．　次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 流産のうち胎芽は子宮内で死亡しているが無症状である状態を稽留流産という。
2) 日本での早産率は約6%であり諸外国と比較して高い。
3) 早産が予想される場合、胎児肺の成熟目的でベタメタゾンが母体に投与される。
4) 頸管無力症の場合、子宮頸管縫縮術が行われる。

R6、9、30(月)実施

母性方法論1　試験問題（20点）　担当　川越

No.　　氏名、　20

1．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。（2点）
1) 妊娠中はインスリン抵抗性が低下する。
2) 糖尿病合併妊娠では先天奇形予防のため妊娠前から血糖コントロールを行う。
3) 妊娠糖尿病の診断には75gOGTT(糖負荷試験)が用いる。
4) 母体が高血糖である場合には胎児の肺成熟は遅れやすい。

2．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。（2点）
1) 最近妊婦の肥満が問題となっており出生児の将来の生活習慣病のリスクが増加する。
2) 特定妊婦は児童福祉法で定義されている。
3) 35歳以上で初めて妊娠することを高齢妊娠という。
4) 妊娠中の母体の循環血液量は妊娠32週ごろには約1.5倍に増加する。

3．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 甲状腺ホルモンは胎児の脳の正常な発達に重要である。
2) 甲状腺機能亢進症の妊婦では妊娠初期はチアマゾール(メルカゾール)内服を避ける。
3) 全身性エリテマトーデス合併妊娠では胎児頻脈を生じることがある。
4) 慢性腎炎合併妊娠の場合クレアチニンクリアランス値が妊娠可否の目安となる。

4．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 妊娠中に虫垂炎を発症した場合、手術はできるだけ避け抗菌薬で治療を行う。
2) 先天性風疹症候群は妊娠初期での母体の感染で起こりやすい。
3) 妊娠中の風疹ワクチンの接種は禁忌である。
4) トキソプラズマ症は妊娠後期での感染で胎児への感染が増加する。

5．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 外陰部に性器ヘルペスの所見を認める場合には帝王切開で分娩する。
2) 分娩前3週間以内に母体が水痘に罹患した場合に新生児水痘を発症しやすい。
3) HBs抗原陽性の妊婦から生まれた新生児には出生後HBワクチンのみを投与する。
4) 成人T細胞白血病ウイルスは主に母乳中のリンパ球を介し児に感染する。

6．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 梅毒は一度治療し完治しても再感染する。
2) 梅毒感染は女性では30-39歳に多く認める。
3) 妊婦の3～5%にクラミジア感染を認める。
4) ヒト免疫不全ウイルス(HIV)の母子感染の経路としては経胎盤、経産道、経母乳のいずれも起こりうる。

7．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 全妊婦に対し妊娠30週前後にB群溶血性連鎖球菌（GBS）の培養検査を行う。
2) 重度の妊娠悪阻では母体のウェルニッケ脳症の予防のためビタミンB1を投与する。
3) 母体の血圧が高い場合、子癇発作予防を目的に硫酸マグネシウムが用いられる。
4) 硫酸マグネシウムの投与中は尿量減少で血中Mg濃度が上昇するので尿量に注意する。

8．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 妊娠42週0日以降の妊娠を過期妊娠とよぶ。
2) 早産は妊娠22週0日以降、妊娠36日6日までに分娩に至った場合である。
3) 一絨毛膜双胎は胎盤循環を共有していることが多く双胎間輸血症候群を起こすことがある。
4) 一卵性双胎が二絨毛膜性双胎（胎盤が2つ存在）になることはない。

9．次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) Rh陰性妊婦では分娩後1週間以内に抗D免疫グロブリンを投与する。
2) Rh式血液型の抗原の中で問題になるのはD抗原である。
3) Rh不適合妊娠で移行抗体が胎児に移行すると貧血になり免疫性胎児水腫を来す。
4) 胎児貧血の評価には胎児の中大脳動脈収縮期血流速度が用いられる

10．　次の選択肢で誤っているものを1つ選びなさい。(2点)
1) 流産のうち胎芽は子宮内で死亡しているが無症状である状態を稽留流産という。
2) 日本での早産率は約6%であり諸外国と比較して高い。
3) 早産が予想される場合、胎児肺の成熟目的でベタメタゾンが母体に投与される。
4) 頸管無力症の場合、子宮頸管縫縮術が行われる。